《第122回》　令和五年八月の作品

〈八月十一日（金）　於・文京区民センター３Ｅ〉

亡き父母の遠くなりゆくお盆かな　（前歩）

真桑瓜もろうて暫し回顧談　（奉男）

凌霄は時を得たりと色を増し　（貴美）

庭の木にこげら来てゐる日曜日　（一江）

緑木の帽子の如き百日紅　（正雄）

水面の雲から雲へ水馬　（隆治）

辛抱も我慢も超えてこの猛暑　（芙紗）

焼きそばを頬張る父子（おやこ）夏祭　（孝昭）

甲子園大会開会式

炎天に嗚呼堂々の上田西　（正佳）

手花火の玉色うれし懐かしき　（平六）